

平成 25 年 1 月 10 日

1 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。
- 福島第一原子力発電所の事故から 1 年 10 ヶ月となりますが、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、今なお、大変なご迷惑とご心配、ご苦勞をおかけしておりますことを、あらためてお詫び申し上げます。
- まずは、安全協定の締結についてです。

昨日、新潟県内の 28 自治体と当社は「東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所に係る住民の安全確保に関する協定書」を締結いたしました。

締結した安全協定においては、「平常時における相互の連携を図るため、原子力発電所連絡会を設置すること」、「異常時には当社から市町村へ通報すること」、「住民の安全確保のために必要があると認める場合に、発電所の現地確認と意見交換ができること」、「発電所の運転保守に起因して住民に損害を与えた場合は、当社は誠意をもって補償すること」等の内容となっております。

当社といたしましては、このたび締結しました協定に基づき、地域の皆さまに安心、信頼される発電所となるよう真摯に取り組んでまいります。
- 次に、発電所の安全対策に関する主な取り組み状況についてです。

1～4 号機側の防潮堤の工事は、本体となる擁壁部の鉄筋の組み上げやコンクリートの打設作業を進めており、進捗率は約 7 割で順調に工事を進めております。淡水貯水池については、昨年末までに水張り作業を終え、使用可能な状態となりました。

また、準備を進めてまいりましたフィルタベント設備につきましては、7 号機において来週より、1 号機において 2 月下旬より基礎工事に着手いたします。本体の詳細設計は継続して進めており、工事の状況については順次お知らせさせていただきます。

現在実施しております断層の活動時期に係わるボーリング作業は、先月までに終了し、引き続き、分析・評価を進めております。評価結果については、来月までに取りまとめたいと考えております。

- 次に、使用済燃料のウォータ・ロッドの変形に関する対応状況についてです。

今週始めに、ウォータ・ロッドの曲がりに関する調査状況として、原子力規制委員会へ中間報告を提出いたしました。

これまでの調査においては、ウォータ・ロッドの曲がり、新燃料にチャンネルボックスを装着する作業において、ウォータ・ロッドに過大な力が加わったことによるものと推定しております。この作業は、平成10年に装着時の荷重管理について見直しを行っており、それ以降における作業では同様の事象は発生していないものと考えております。

また、本事象による定常時の炉心特性等への影響について解析を含めた評価を行っており、これまでの結果においては大きな影響を与えるものではないと評価しております。

引き続き、ウォータ・ロッドの曲がり確認されている2号機、5号機以外の燃料集合体についても点検を進め状況把握に努めるとともに、原因を究明するためのモックアップ試験や安全解析への影響評価について進めてまいります。

なお、現在、原子炉内にあり、今後継続使用を予定している燃料については、順次原子炉を開放し、点検を進めてまいります。

- 次に、当社の福島復興本社についてです。

当社は、今月1日に福島復興本社を設立いたしました。この福島復興本社では、事故により被災された方々への賠償、除染、復興推進などについて、迅速かつ一元的に進めてまいります。事故により避難を余儀なくされている方々が、一日も早く故郷にご帰還できるように、福島県の方々への対応を会社の最優先課題として位置付け、福島県の復興に誠心誠意取り組んでまいります。

復興支援の取り組みにあたっては、この発電所からも順次福島へ赴き対応を進めてまいります。

○ 最後に、当社では現在、原子力安全改革プランの検討を進めておりますが、今年はこのプランを実現していく変革の年となります。また、これまで進めてきている安全対策についても引き続き着実に進め、発電所の安全性をさらに向上し、地元の皆さまから信頼される安全で災害に強い原子力発電所となるよう全力で努めてまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX

プレス公表 (運転保守状況)

1, 7号機フィルタベント設備の概要

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成25年1月)

平成25年1月10日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4 ~ H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定期検査による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24 ~ H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定期検査による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31 ~ H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定期検査による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18 ~ H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定期検査による停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (12月末現在)

12月	0.0%
24年度累計	0.0%
運転開始後累計	60.9%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (12月末現在)

12月	0
24年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H24年度第2四半期)

当期発生本数	1,398
貯蔵庫累積貯蔵本数	33,538
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H24年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,772
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (1月4日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	887	2,124	60%
	刈羽村	89	185	5%
	その他	118	917	21%
	小計	1,094	3,226	86%
県外		110	617	14%
合計		1,204	3,843 (3,119*)	-
		5,047		100%
協力企業社数(社)		594		

※1月7日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (12月末現在)

	12月	年度累計
地元	502	6,814
県内	295	6,822
県外	274	8,272
国外	16	303
合計	1,087	22,211

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
1月24日	定例の記者説明会
2月14日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

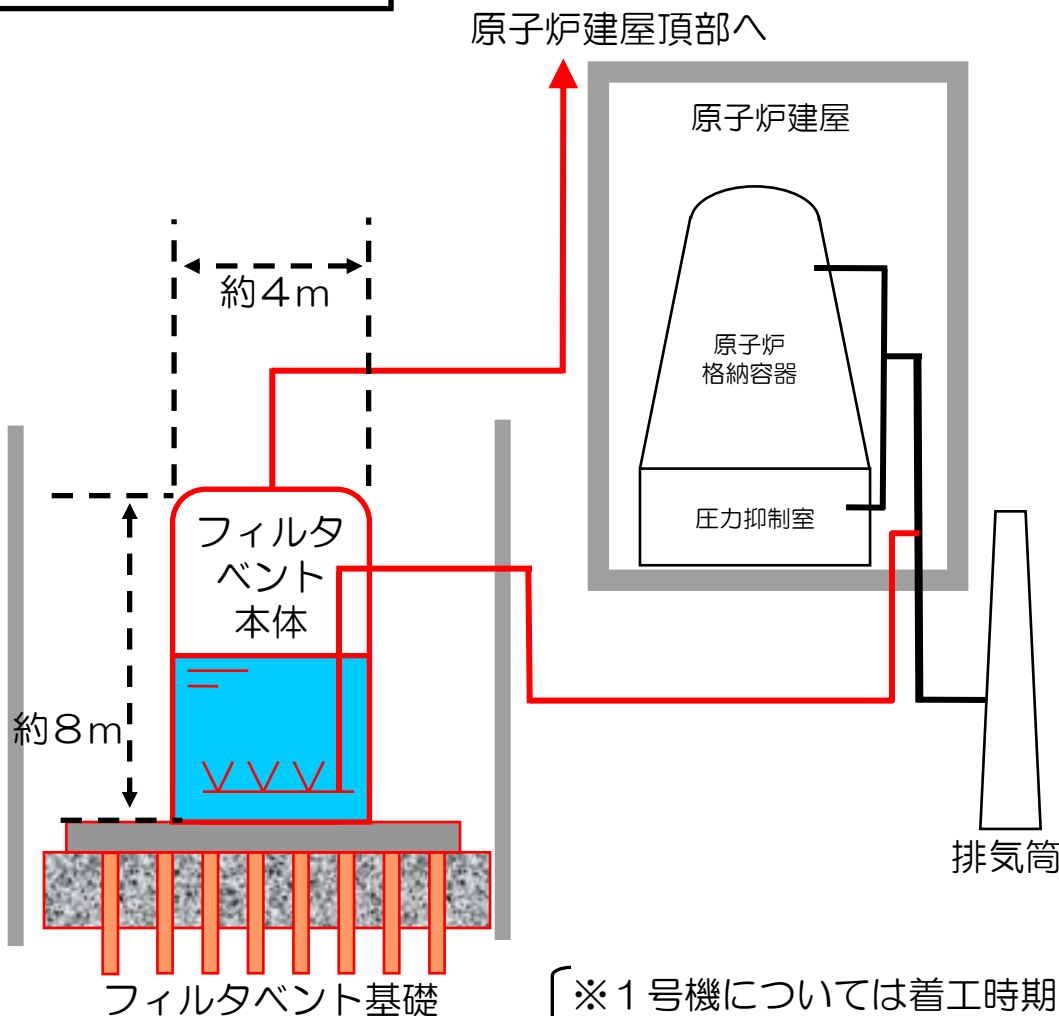
東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	12月14日	2号機	原子炉複合建屋（非管理区域）におけるけが人の発生について（区分Ⅲ）	—
②	12月17日	2号機	原子炉建屋（非管理区域）における油漏れについて（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成24年12月14日午後3時20分頃、2号機原子炉建屋地下1階の非常用ディーゼル発電機（A）室（非管理区域）において、非常用ディーゼル発電機（A）の定例試験中に、当社社員が床面に油溜まりを確認しました。このため消防本部へ連絡し、現場を確認していただきました。 その後、当該発電機を調査したところ、非常用ディーゼル発電機機関軸封付近に油滴が付着していることを確認しました。 なお、床面に漏れた油は約180ミリリットルで、拭き取りによる清掃を実施しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 2号機は現在停止中のため、3台設置されている非常用ディーゼル発電機のうち、油漏れを確認した発電機を除く残りの2台が待機中であることから、安全性の問題はありません。 漏れた油には放射性物質は含まれておらず、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 非常用ディーゼル発電機（A）の定例試験については中止しており、今後、当該発電機については、油の漏れた原因調査のために分解点検を行うとともに、再発防止対策について検討してまいります。</p>

7号機フィルタバント設備の概要

7号機イメージ図



1. 目的

炉心損傷後の放射性物質放出を低減するために、フィルタバント設備を設置する。

2. 基礎工事着工時期

平成25年1月15日～

3. フィルタバント設備の概略

■フィルタバント本体の概略寸法

直径：約4m 高さ：約8m

■フィルタバント基礎の概略寸法

基礎の大きさ：幅約15m
×長さ約15m

基礎杭の深さ：約30m

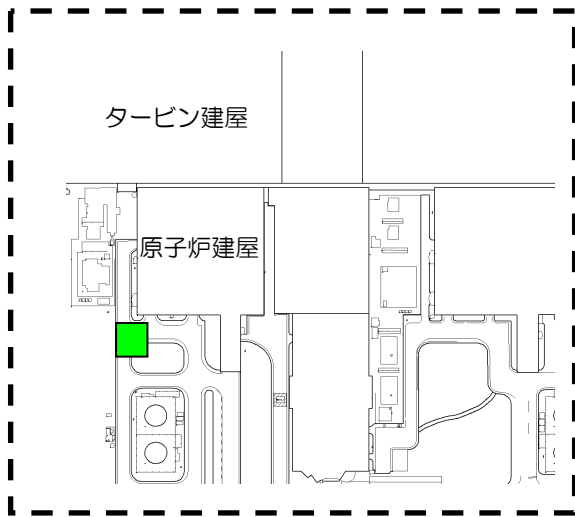
基礎杭の本数：24本

*本設備はS_sの地震動に耐える耐震安全性を確保。

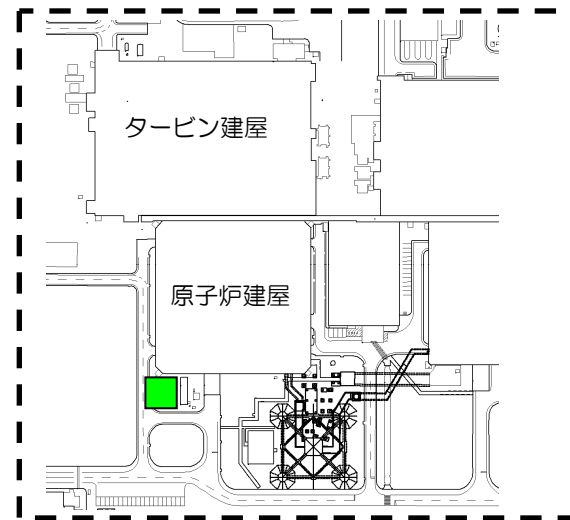
〔※1号機については着工時期を平成25年2月下旬に予定しており
基礎工事は地盤改良工法の採用を検討中。〕

フィルタベント設置箇所イメージ

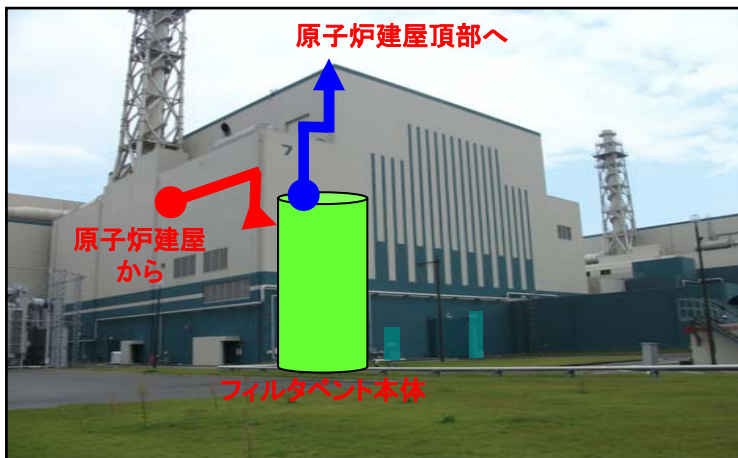
<7号機> 設置予定図



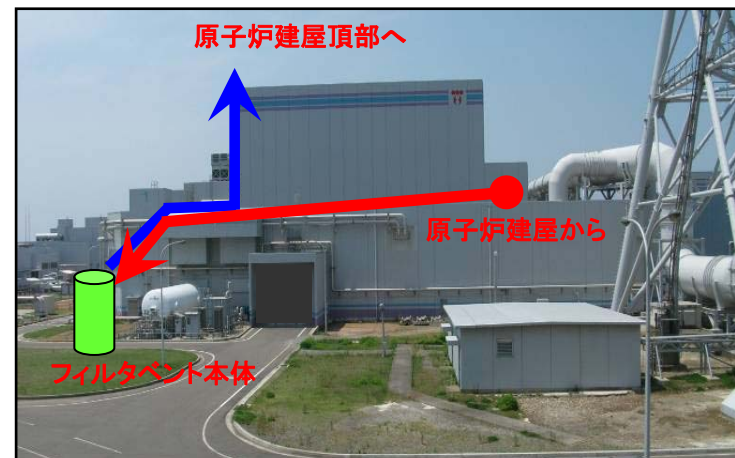
<1号機> 設置予定図



■ フィルタベント設置予定箇所



設置イメージ図



設置イメージ図